＜第２章＞本市の現況

1　地勢の状況

本市は、埼玉県北西部に位置しており、東京都心から 70 キロメートル圏にあります。平成 18（2006）年 1 月に旧深谷市、岡部町、川本町及び花園町が合併しました。周辺は東に熊谷市、南に嵐山町と寄居町、西は本庄市と美里町、北は群馬県の伊勢崎市と太田市に接しています。市域の面積は、138.37 平方キロメートルで、そのうち田畑が 47.6 パーセントと約半分を占めています。

北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状台地を形成する平坦な地形となっています。この利根川と荒川という 2 つの大きな河川を中心とした水辺と、鐘撞堂山など自然豊かな環境を有しています。

利根川と荒川の 2 つの河川は、肥沃な大地の形成に寄与しています。この肥沃な大地がもたらす農作物として、深谷ねぎやブロッコリー、トウモロコシは全国的に有名な特産となっており、ユリやチューリップなどの花き栽培も盛んです。

交通の面では、関越自動車道、国道 17 号・同深谷バイパス・上武国道、国道 140 号・同バイパス、国道 254 号などの主要道路が通っています。

また、鉄道については、JR 高崎線、秩父鉄道の 2 路線において駅を有するとともに、上越・北陸新幹線及び JR 八高線が通過しています。

文化財としては、郷土の偉人渋沢栄一や尾高惇忠の関連施設、ホフマン輪窯 6 号窯をはじめ、幡羅官衙遺跡（はらかんがいせき）や中宿遺跡など、歴史的遺産が数多く残されています。

表2-1　深谷市の地目別面積（平成28(2016)年1月1日現在）　（単位：ha）

項目	総面積	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地	その他
面積	13,837.0	1,748.2	4,842.4	3,246.9	3.7	417.0	38.0	652.2	2,884.6
構成比（%）	100.0	12.6	35.0	23.5	0.0	3.0	0.3	4.7	20.8

出典：深谷市資産税課　概要調書

※端数処理のため、総面積の合計が一致しない場合があります。

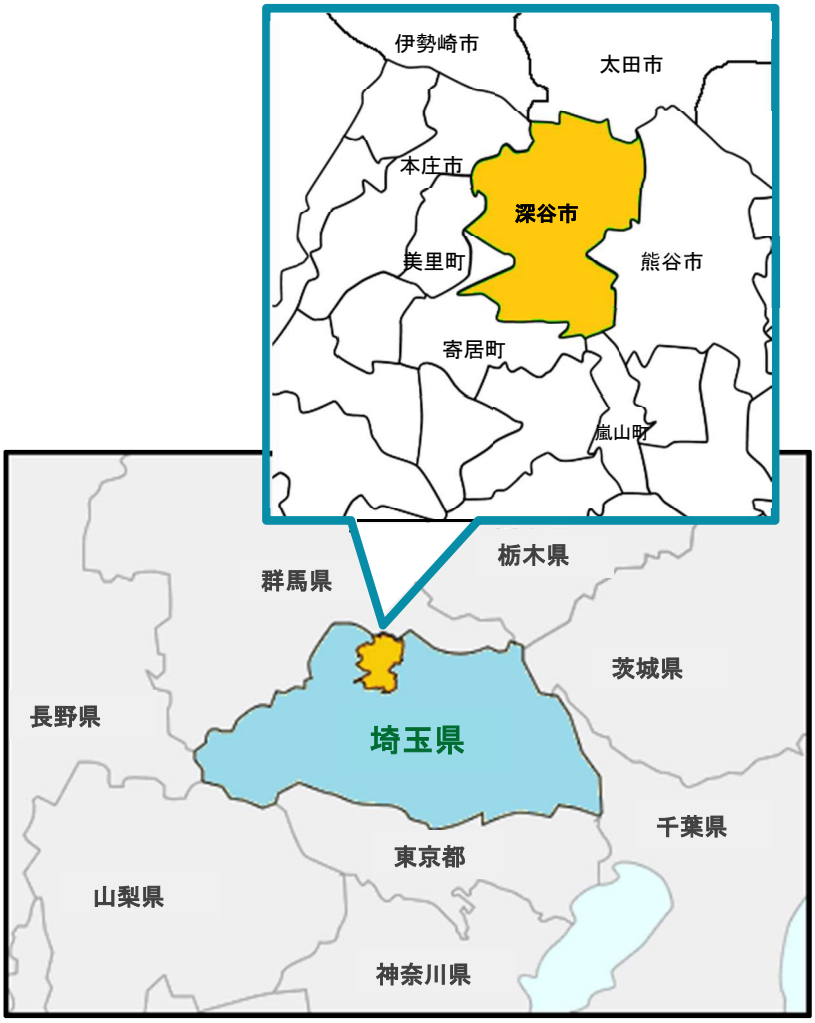


図 2-1　深谷市の位置と隣接市町村

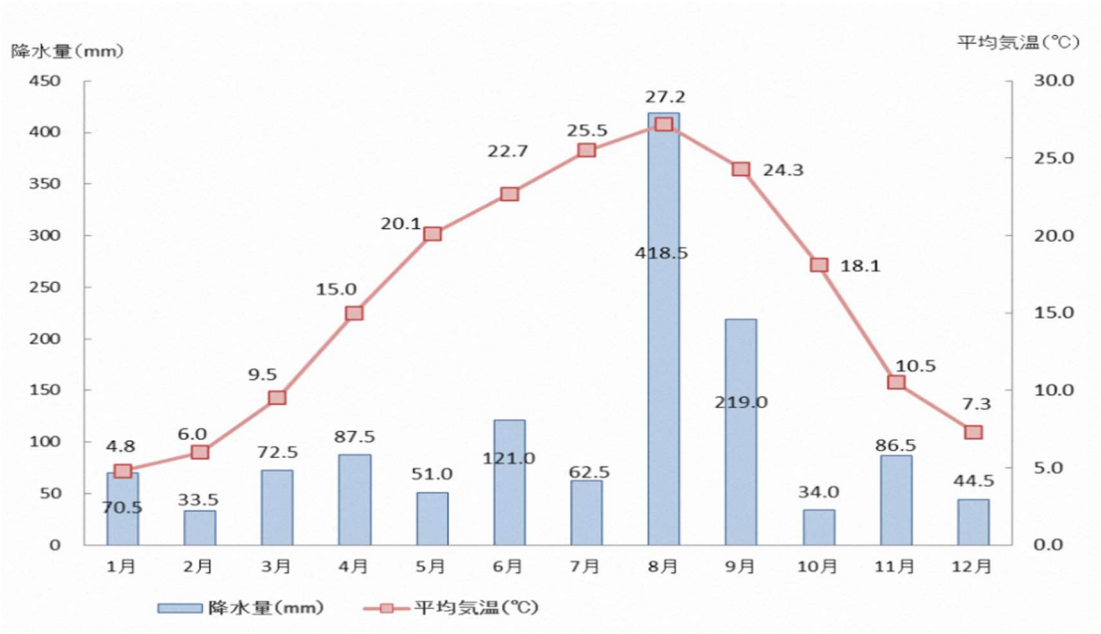
▼緑のねぎ畑が広がる田園風景

2 気候の状況

本市の降水量は、6 月から 9 月にかけての夏から秋に多く、冬は少なくなっています。また、冬には北西からの季節風が強く、乾燥するという太平洋側の気候の特色とともに、沿岸から離れているという地理的条件により、内陸性気候の性格も併せもっています。

このため、夏と冬の平均気温の差が比較的大きく、さらに日中は暑く、夜間は涼しいという一日の中での温度差が大きい特徴があります。この温度差により雷が多く発生し、雷雨が夏の降水量を多くする一因となっています。

また、本市は日照時間が長いという特徴があります。熊谷地方気象台における県内地点別の日照時間データを表 2-2 に示します。なお、埼玉県の日照時間は、表 2-3 のとおり、全国 2 位となっています。



出典：熊谷地方気象台

図 2-2 平均気温と降水量（平成 28（2016）年）

表2-2 埼玉県内地点別日照時間

（単位：時間）

地点名＼年	平成27(2015)年	平成28(2016)年
熊谷	2,168.2	2,071.3
寄居	2,074.0	1,999.2
久喜	2,071.8	2,020.2
秩父	1,955.1	1,951.6
鳩山	2,028.8	1,945.2
さいたま	2,025.5	1,916.1
越谷	1,994.7	1,905.5
所沢	1,965.9	1,844.6

出典：熊谷地方気象台

表2-3 都道府県別日照時間上位5都道府県

（単位：時間）

順位	都道府県名	平成27(2015)年
1位	山梨県	2,205.0
2位	埼玉県	2,168.0
3位	群馬県	2,143.0
4位	静岡県	2,134.0
5位	茨城県	2,118.0

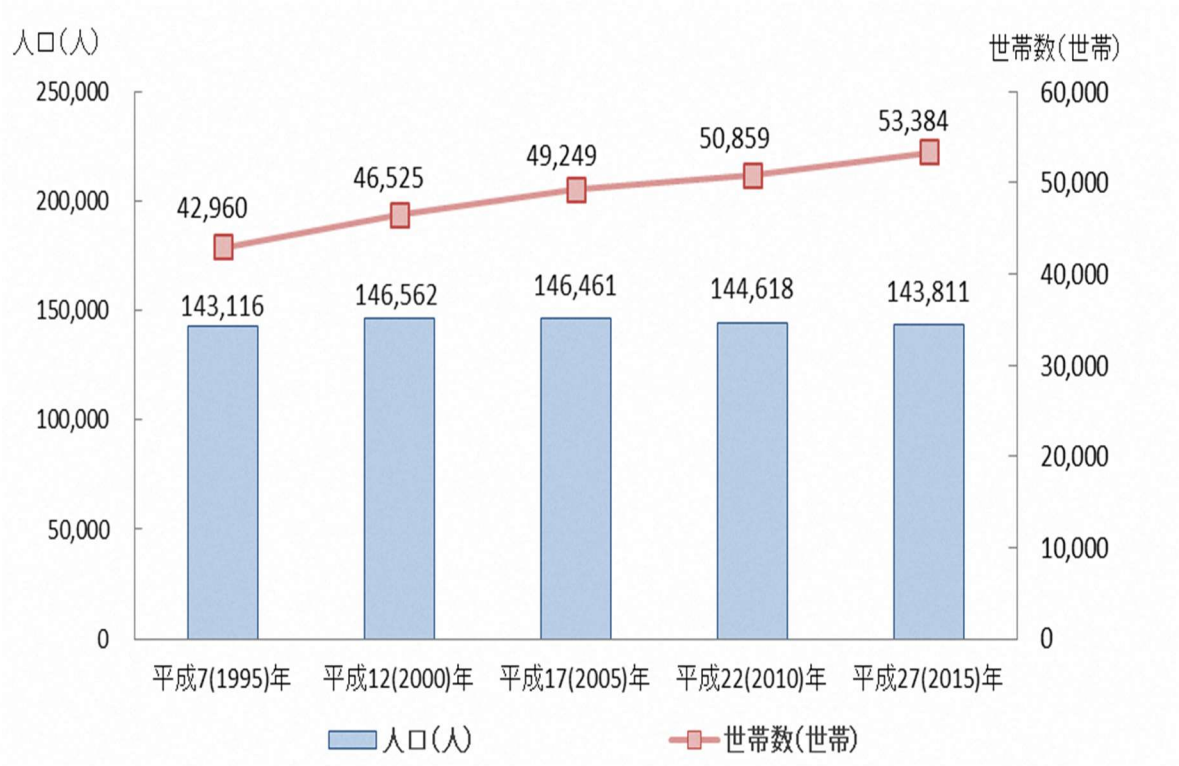
出典：統計でみる都道府県のすがた2017

3 人口と世帯の状況

3.1 人口等の推移

本市の人口は、平成 27（2015）年の国勢調査によると、143,811 人となっています。人口推移を見ますと平成 12（2000）年の 146,562 人をピークに減少が続いています。

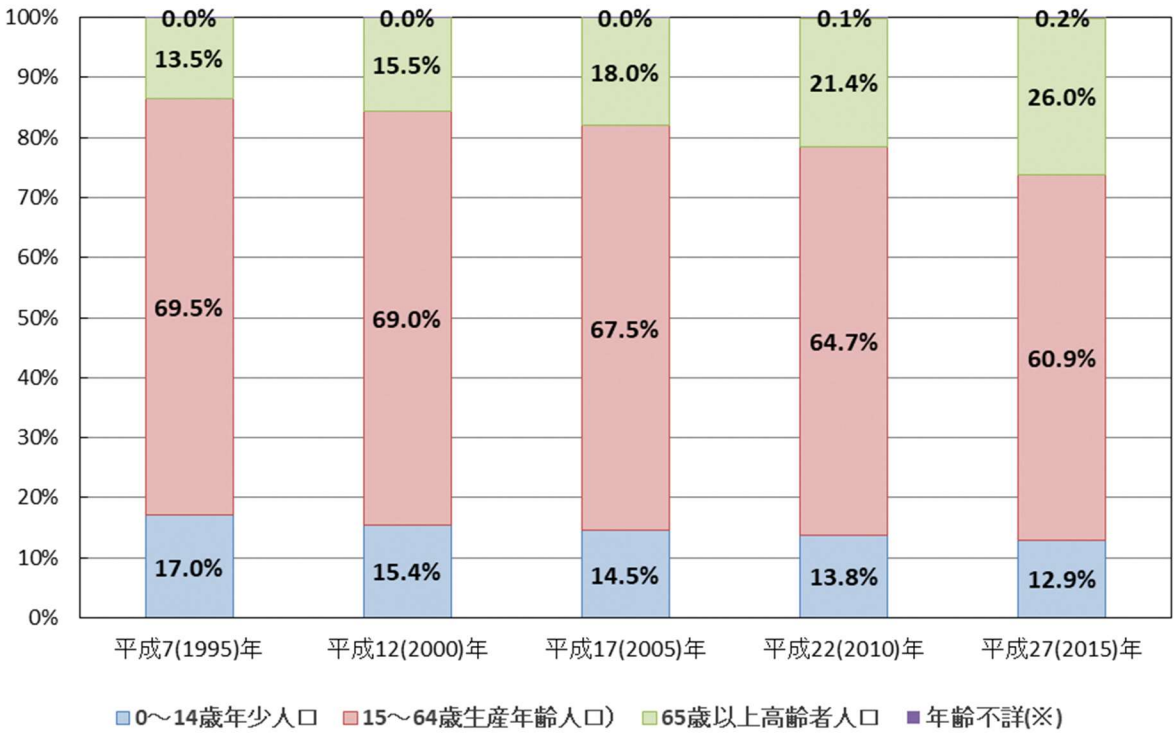
世帯数については、53,384 世帯であり、平成 22（2010）年に比べて、2,525 世帯、割合にして 5.0%の増加となっています。人口が減少している中、世帯数は増加傾向にあり、核家族化が進んでいることがうかがえます。



出典：国勢調査

図 2-3 人口・世帯数の推移

また、年齢別人口では、平成 7（1995）年から平成 27（2015）年までに、年少人口割合は 17.0%から 12.9%に減少し、高齢者人口割合は 13.5%から 26.0%に増加し、少子高齢化がうかがえます。



出典：国勢調査

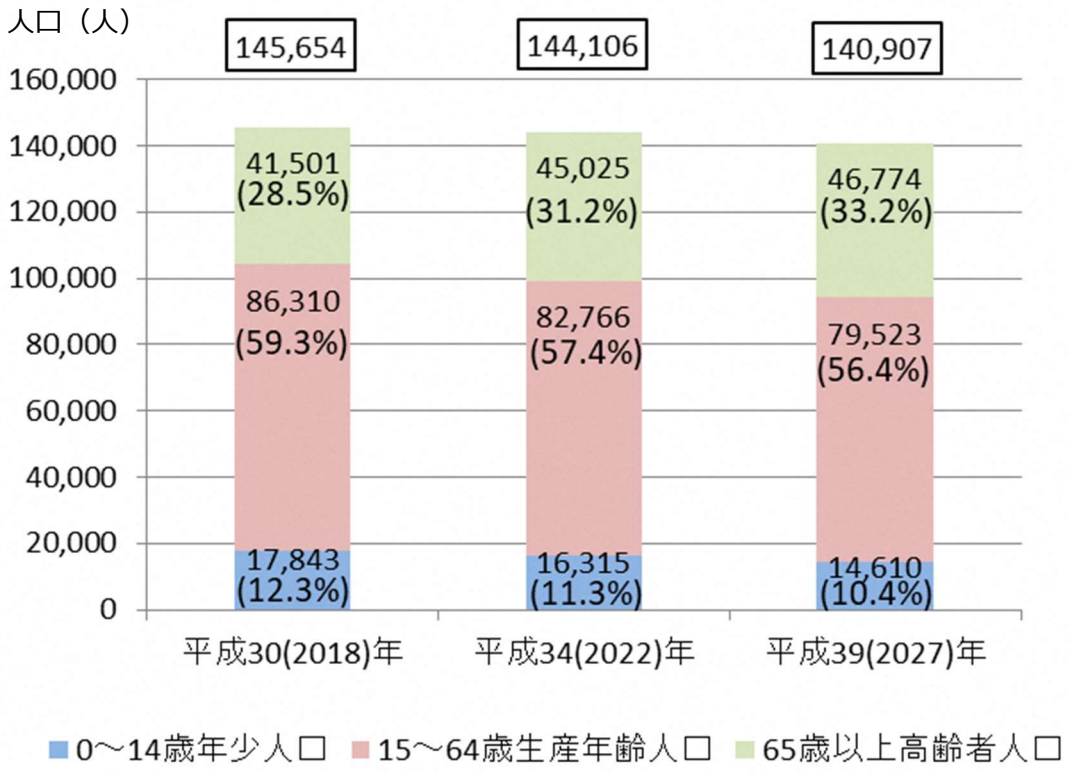
※年齢不詳とは、調査票に未記入や誤記入がある場合や調査票に記入された内容の分類が不詳である場合のものです。

図 2-4　年齢別人口割合の推移

３.２　将来の人口の見通し

本市の人口は、本計画の初年度にあたる平成 30（2018）年に 145,654 人となり、その後本計画期間の中間にあたる平成 34（2022）年には 144,106 人へ、さらに本計画最終年度の平成 39（2027）年には 140,907 人に減少すると推計されています。

この間、年少人口割合は平成 30（2018）年の 12.3%から本計画最終年度の平成 39（2027）年には 10.4%に減少し、高齢者人口割合は 28.5%から 33.2%へ増加し、さらなる少子高齢化が進むものと見込まれています。



出典：深谷市人口ビジョン

※深谷市人口ビジョン（平成 27（2015）年 9 月策定）は、住民基本台帳による人口に基づき、市独自推計（コーホート要因法）により算出した数値です。なお、国勢調査と住民基本台帳とでは集計方法などが異なるため差異が現れることがあります。

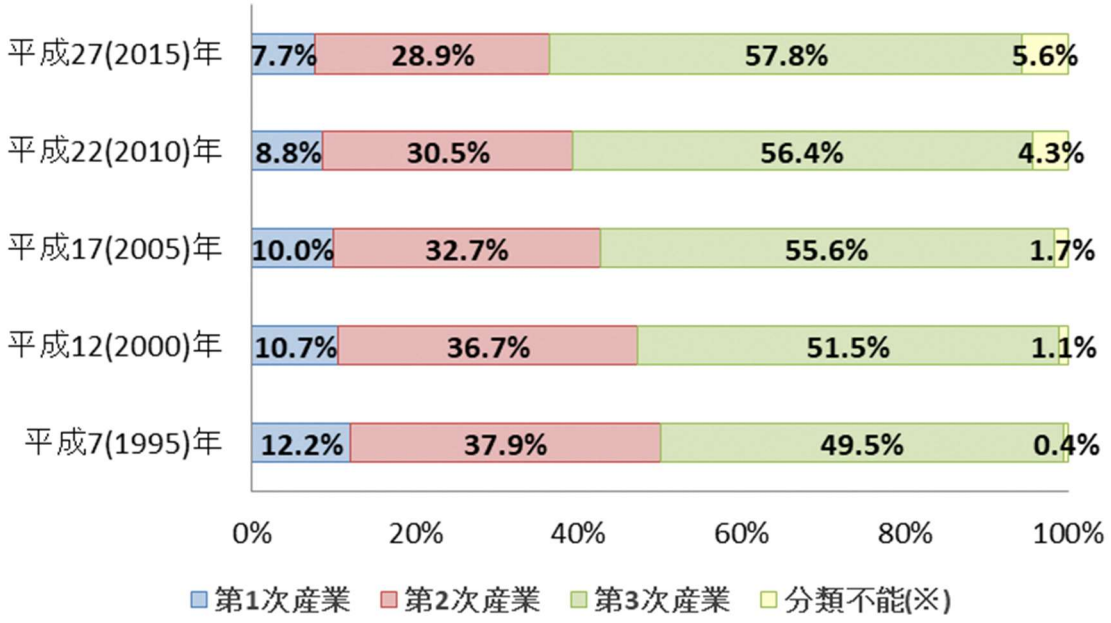
図 2-5　年齢別人口割合の将来推計

4 産業の状況

4.1 産業構造

平成 27（2015）年の国勢調査によると、本市の就業人口割合は、第 3 次産業が最も多く、57.8%と全体の半分以上を占めています。平成 7（1995）年以降、第 1 次産業、第 2 次産業は減少傾向ですが、第 1 次産業については、本市の平成 27（2015）年の農業産出額（注）は約 349 億 3 千万円であり、県内 1 位となっています。深谷ねぎやブロッコリー、トウモロコシなどの野菜の生産、ユリやチューリップなどの花き栽培が盛んに行われ、農業が主要な産業となっています。

（注）出典：平成 27（2015）年市町村別農業算出額



出典：国勢調査

※分類不能とは、調査票の記入不備などであって、いずれに分類すべきか不明の場合又は記入不詳で分類しえないものです。

図 2-6　就業人口割合の推移

４.２　観光

本市に来訪した平成 28（2016）年における観光客数は、県の観光入込客統計調査によると約 392 万人となっています。「観光地点」は市内にある観光施設、「イベント」は祭りなどの入込客数を合計したものであり、観光入込客数のうち、大半の方が観光施設へ訪れています。

市内には渋沢栄一ゆかりの建造物であるホフマン輪窯 6 号窯などの文化財やふかや花フェスタ、深谷七夕まつりなどのイベントがあり、観光客が多く訪問する契機となっています。

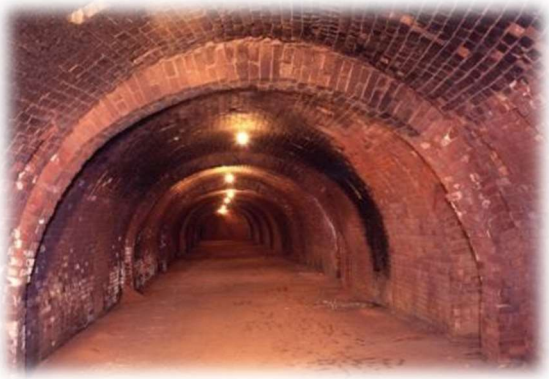
表2-4　観光入込客数　（単位：人）

年／目的	平成24(2012)年	平成25(2013)年	平成26(2014)年	平成27(2015)年	平成28(2016)年
観光地点	3,386,826	3,663,314	3,857,103	4,086,628	3,397,141
イベント	503,265	464,874	471,500	485,851	527,735
合計	3,890,091	4,128,188	4,328,603	4,572,479	3,924,876

出典：埼玉県観光入込客統計調査

▼ふかや花フェスタ

▼ホフマン輪窯 6 号窯



5 土地利用の状況

本市の都市計画区域の指定状況を表 2-5 に示します。本市の一部（市北部の利根川周辺）を除き、市の総面積の 9 割が、都市計画区域に指定されています。また、市中心部、旧 3 町の中心部では用途地域が指定されていますが、全体の面積としては小さい状況です。

表2-5 都市計画の概要 （平成29年(2017)年4月1日～） （単位:ha）

区分			面積
行政区域面積			13,837.0
都市計画区域面積			12,493.6
	線引き※1 都市計画区域	市街化区域面積	1,749.1
		市街化調整区域面積	9,162.5
	非線引き※2 都市計画区域	用途地域指定有面積	153.9
		用途地域指定無面積	1,428.1
都市計画区域外※3			1,343.4
用途地域	第一種低層住居専用地域		165.7
	第一種中高層住居専用地域		412.9
	第一種住居地域		695.3
	第二種住居地域		25.1
	近隣商業地域		48.3
	商業地域		62.2
	準工業地域		171.2
	工業専用地域		321.3
特別工業地区		規制	48.8
		緩和	110.1
準防火地域			98.0

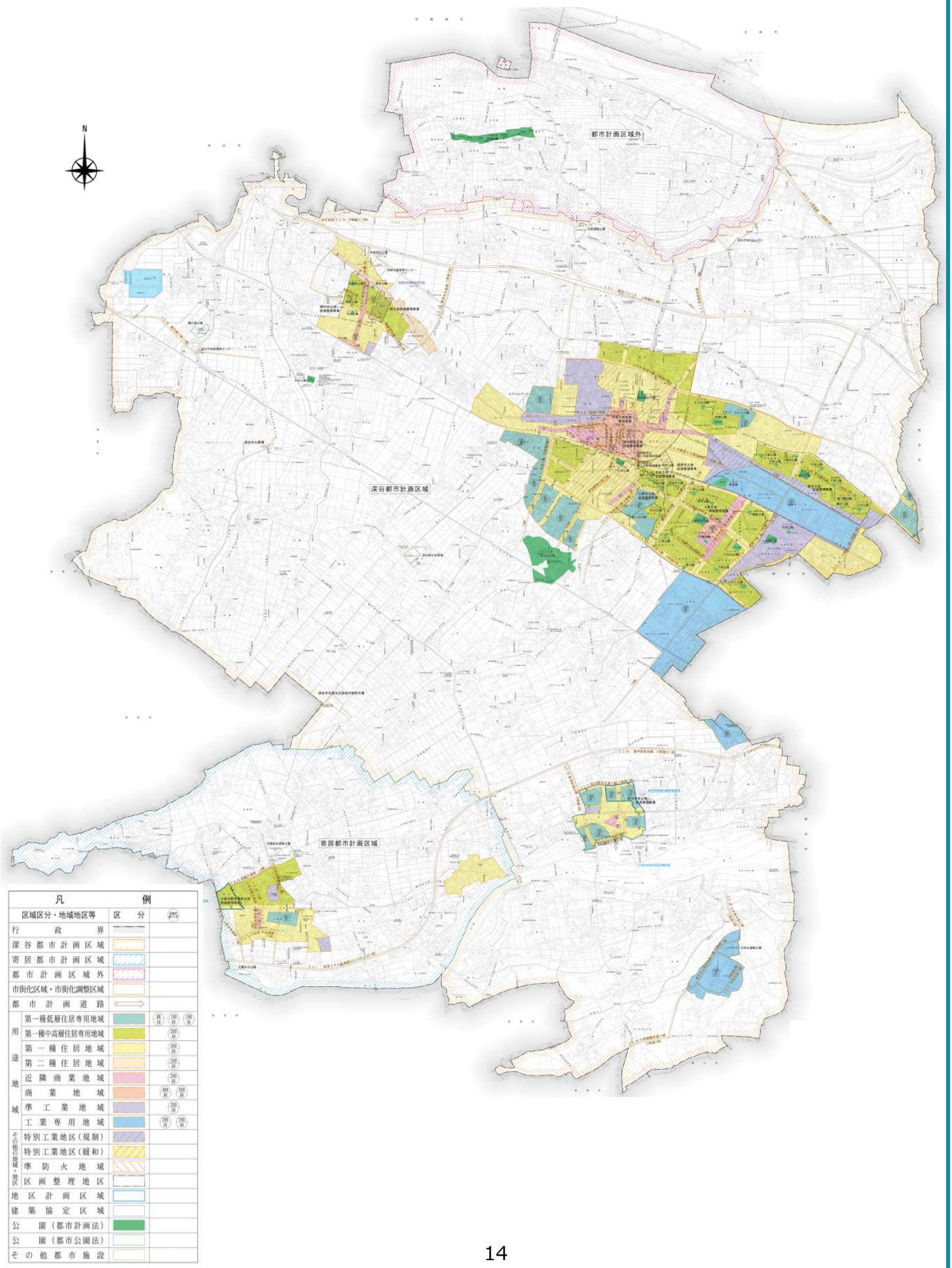
出典:深谷市(都市計画課調)

※1 線引き都市計画区域：市街化区域と市街化調整区域の区域区分を定めている都市計画区域
旧深谷市（都市計画区域外を除く）、旧岡部町、旧川本町の区域

※2 非線引き都市計画区域：市街化区域と市街化調整区域の区域区分を定めていない都市計画区域
旧花園町の区域

※3 都市計画区域外：都市計画区域に属さない区域
旧深谷市の豊里地区及び八基地区

深谷市都市計画図


N
都市計画区域外
深谷都市計画区域
寄居都市計画区域
凡　例
区域区分・地域地区等
区　分
行政界
深谷都市計画区域
寄居都市計画区域
都市計画区域外
市街化区域・市街化調整区域
都市計画道路
用途地域
第一種低層住居専用地域
第一種中高層住居専用地域
第一種住居地域
第二種住居地域
近隣商業地域
商業地域
準工業地域
工業専用地域
その他の地域・地区
特別工業地区（規制）
特別工業地区（緩和）
準防火地域
区画整理地区
地区計画区域
建築協定区域
公園（都市計画法）
公園（都市公園法）
その他都市施設

6 交通の状況

市内には、関越自動車道、国道 17 号・同深谷バイパス・上武国道、国道 140 号・同バイパス、国道 254 号などが通っており、いずれも広域間の基幹的役割を果たす道路として機能しています。また、地域の玄関口として関越自動車道花園インターチェンジを有しています。

鉄道は JR 高崎線、秩父鉄道の 2 路線において駅を有するとともに、上越・北陸新幹線及び JR 八高線が通過し、上越・北陸新幹線の熊谷駅、本庄早稲田駅にも近接していることから、東京都心方面、上信越方面、秩父方面への交通の要衝となっています。

民間路線バスは、籠原駅南口行き、熊谷駅行き、寄居車庫行きの 4 系統が運行していますが、行き先により 1 日数便と少ない状況です。

また本市では、定時定路線型の市内循環バス（4 系統）が運行され、さらに利用者が事前に乗りたい場所や時間を予約するデマンドバス方式の運用により、利用者からの需要に応じた効率的な運行を行うことで、利便性の向上に努めています。

表2-6 市内の公共交通の概要

JR高崎線	1時間1本～9本
JR八高線	駅なし
秩父鉄道	1時間1本～4本
上越・北陸新幹線	駅なし
民間路線バス	籠原駅南口←→深谷日赤（1日54便） 熊谷駅←→深谷駅（1日13便） 寄居車庫←→深谷駅（1日10便） 寄居車庫←→本庄駅南口（1日12便）
市内循環バス	北部定期便、東循環便、西循環便、南部シャトル便 それぞれ1日11～12便程度

出典：JR東日本HP、秩父鉄道HP、国際十王交通HP、深谷市

▼JR 深谷駅舎

▼市内循環バス（くるりん）

鉄道の利用に関して、JR 高崎線と秩父鉄道の利用状況を以下の図 2-7 及び図 2-8 で示します。JR 高崎線では乗車人員は年度により多少の増減があり、秩父鉄道では、平成 23(2011)年度から平成 26（2014）年度までは増加をしていましたが、平成 27（2015）年度は減少しました。

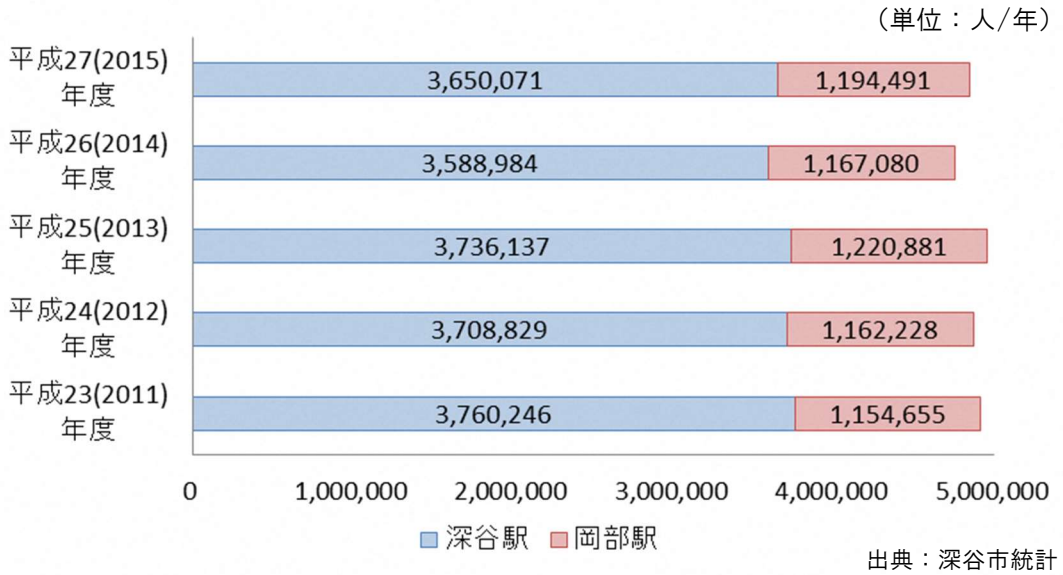


図 2-7　市内の JR 高崎線各駅における年間乗車人員の推移

図 2-8　市内の秩父鉄道各駅における年間乗車人員の推移

表 2-7 に市内民間路線バスの利用状況を示します。便数が少ない路線もあり、1 便平均利用人員も少ない状況です。

表2-7　市内民間路線バス利用状況（平成27（2015）年度）

路線	1日便数（便）	年間乗車人員（人）	月平均利用人員（人）	1便平均利用人員（人）	備考
深谷ー熊谷	13	39,673	3,306.0	8.8	国際十王交通(株)調
深谷日赤ー籠原	54	149,739	12,478.0	7.2	国際十王交通(株)調
深谷ー花園ー寄居	5	14,453	1,204.4	7.9	武蔵観光(株)調
合計	72	203,865	ー	ー	

出典：深谷市統計

表 2-8 に市内を循環するバスサービスの利用状況を示します。

表2-8　市内循環バス利用状況（平成27（2015）年度）

路線	1日便数（便）	年間乗車人員（人）	1日平均利用人員（人）	1便平均利用人員（人）	備考
北部定期便	12	23,558	65.4	5.5	都市計画課調
東循環便	12	23,205	64.5	5.4	
西循環便	12	22,742	63.2	5.3	
南部シャトル便	11	27,017	75.0	6.8	
北部デマンド	－	6,208	17.2	1.1	
南部デマンド	－	6,070	16.9	1.1	
岡部デマンド	－	5,785	16.1	1.1	
川本デマンド	－	4,988	13.9	1.1	
花園デマンド	－	5,719	15.9	1.1	
合計	47	125,292	－	－	

出典：深谷市統計

※北部デマンドから花園デマンドは、利用者から事前に予約があった場合のみ運行するため、1日便数の数字は記載しておりません。

平成 28 （2016）年 3 月末日の自動車登録台数は、102,609 台となっています。これは 1 世帯あたり約 1.8 台となり、ほとんどの家庭で複数台所有していると推測されることから、本市ではマイカーが大きな交通手段となっています。

表2-9　自動車登録台数の推移（各年3月31日現在）　（単位：台）

項目＼年	平成24(2012)年	平成25(2013)年	平成26(2014)年	平成27(2015)年	平成28(2016)年
乗用	55,455	56,689	56,984	56,715	56,575
軽	40,216	41,584	43,339	44,763	46,034
合計	95,671	98,273	100,323	101,478	102,609

出典：埼玉県統計年鑑

7 市民協働のまちづくり

本市では、「深谷市市民協働指針」に基づき、市民、事業者及び行政が相互の立場や特性を認識・尊重しながら、共通の目的を達成するために協力して活動する、市民協働のまちづくりを推進しています。市民協働のまちづくりとは、それぞれが手を取り合い、持てる力を最大限に発揮し、市民全員の力を生かすことによって「住み良い、魅力的なまち」を目指すものです。

協働に参加する各主体が、お互いの特性を活かし協働を進めることにより、市民にとっては行政だけでは提供することができなかったきめ細かいサービスを受けることが可能となり、行政にとっては業務を見直す機会を得ることで経費削減が図れるなど、広く地域社会にさまざまな効果をもたらします。

本市では、地域の清掃活動はもちろん、ガーデニング、河川美化活動及びアダプト制度など、環境保全に関する取組も実施されています。

▼市民ガーデニングボランティア